令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0572109445		
法人名	ヴォルファート株式会社		
事業所名	グループホームほおずき		
所在地	秋田県北秋田郡上小阿仁村小沢田字向川原213番地4		
自己評価作成日	令和3年2月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人　秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1
訪問調査日	令和3年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用されている一人ひとりが自分らしく生活を送ることが出来るようご本人の状態に合わせながら、「住み慣れたこの村で、たくさんの方々に見守られながら、個性豊かに健康で楽しみある時間を過ごして頂けるよう、スタッフが寄り添いあたたかくご支援させて頂きます」の理念に基づき、日々の生活を共に過ごさせて頂いております。
季節に合わせた行事の企画、レクリエーション活動を充実し楽しみある生活を送ると共に、健康で長生きを目標に毎日歩行練習や下肢筋力低下予防運動等を行い、元気に過ごして頂けるよう支援させて頂いております。2か月に1度ほおずきだよりを作成してご利用者様のホームでのご様子をお伝えすることで、ご家族様とのつながりを大切に安心して過ごして頂けるよう努めさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

ホームでの暮らしは、これまでの生活の延長であるとの考えから、管理者を始め職員は、企業理念に加え、新しく作成した介護理念を念頭に置いて日々介護の実践に努めている。
利用者が住み慣れたこの村で、たくさんの方々に見守られながら、健康で楽しみある時間を過ごしていただけるよう支援し、利用者・家族の想いを尊重したケアを実践している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
64	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム玄関や事務所内に理念を設置することでいつでも見えるようにしている。年1回内部研修で理念を振り返る機会を持ち、今までの良い点・課題を抽出し、事業所の目標を明確にすることで代表者、管理者、職員が共有しながら実践している。	企業理念の他に普段の生活の中で「身近に思いながら笑顔で寄り添いたい」との思いから、昨年職員全員で話し合い新しい理念を作り、実践につなげている。一人ひとりの残存能力を活かしながら満足して暮らせるよう職員が意識して働いている様子が確認できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、感染症予防対策として地域との交流を控えさせて頂いている。	感染予防対策として地域との交流は控えている。	コロナ禍の中で地域との交流を控えているが職員間で話し合い、地域との付き合いが途切れない事を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	機会は少ないが、相談があれば電話等で対応させて頂く体制は整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での出来事や取り組みについて報告を行い、御利用者様やご家族様、推進会議委員、地域の方よりご意見やアドバイスを頂きながらより良いサービス提供に努めている。	事業所での出来事や取り組み、研修を行った内容等の報告をしている。今年度はコロナ禍であるため書面開催とし、参加(送付)者にはアドバイスシートを会議資料と一緒に送付した。社会福祉協議会からの感想や、利用者が転倒した時の報告に関する意見をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、地域ケア会議等において随時情報交換を行いながら連携させて頂いている。また、毎月図書館から本を貸り、ご利用者様に提供するなど村の公共施設のご協力を頂いている。	毎月村の図書館から本を借り利用者に提供したり、レクリエーションのときの読み聞かせに利用したりしている。 生活保護の利用者が3名おり疑問に思うことは相談し、アドバイスをもらうなど連絡を取りやすい関係ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化のための指針に基づき定期的に委員会で話し合い身体拘束に向けて取り組んでいる。日中は玄関を施錠せず、職員が見守ることで家庭的な雰囲気の中で生活して頂いてる。	法人全体としてマニュアルを備え身体拘束廃止委員会を開催し、定期的に内部研修を行いながら、身体拘束を行なわないことを職員間で共有し実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修で職員全体に周知している。不適切な対応の無いようご利用者様への声がけ、接し方について配慮を心掛けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援事業を利用されている方はいないが、必要があった時には過去の実績から利用に向けて支援が行える環境は整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分な説明の時間を設け丁寧に説明している。不明な点があれば分かりやすく伝えるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来設時にはご意見やご要望をお聞きするよう努めている。遠方のご家族様には、電話での聞き取りや手紙のやり取りを行わせて頂いてる。必要な場合は、役場・包括支援センター等へ相談出来る事を契約時に説明している。	利用者それぞれの写真が掲載され日常の様子が記された「ほおづき便り」を2ケ月に一度家族に郵送したり、毎月の請求書と一緒に日常の様子について手書きの報告を送るったりすることで、ご家族より意見やコメントを聞くきっかけとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議の開催や必要に応じて随時話し合いの場を設けて意見交換を行い、その日から実施できるよう取り組みを行っている。	毎月定期的に開催される職員会議や申し送りノート等、日常の小さな気付きを大切に職員の意見も汲み上げ、運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入しており、職員一人ひとりが向かう目標や課題を明確にし、互いに向上心を持って働けるような環境・条件の設備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月内部研修を開催し、職員のスキルアップに繋げている。外部研修へも参加する機会を持ち、更に伝達研修で全職員へ周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣町のグループホームとの交流や会議等で参加した他事業所の方々との情報交換を行い、サービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に不安に思っている事や分からない事等を引き出しながら、一つ一つに対しゆっくりとお話しを聴き、お気持ちを共有する事から始めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前後に十分に話し合う時間を確保し、不安な事や要望をお聴きしている。ホームの対応やご利用者様の状態を面会時や電話、お手紙等でお知らせし、安心に繋げられるような支援を心掛けている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の声に耳を傾け、表情やしぐさの変化を見逃さず、ご本人のおかれている状況や精神状態の把握に努め、同じ目線で物事を考え、共に生活を楽しめるよう工夫している。ご利用者様の助け合いの中でも、良好な関係が築けるよう職員も同じ立場に立って支援を行っている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様の想いを感じとり、職員とご家族様と相談しながらケアの方向性を見出したり、その都度情報交換しながら生活を支えていくよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様の意思を尊重しながら、馴染みの美容室へ送迎を行う等個々の要望に合わせ、これまでの生活の延長としてご本人らしく生活を送られるよう支援させて頂いている。	事業所の暮らしは、これまでの生活の延長であると捉え支援している。馴染みの人や場との関わりが利用者にとってどのような影響があるかを理解しており、美容院などへの外出対応は利用者個別のニーズに応じて提供されている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合うご利用者様同士が一緒にお茶の時間を過ごしたり、会話を楽しめるような空間作りに努めながら、職員も間に入り良好な関係が作れるよう支援を行っている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大半が入院されてからの契約終了であり、次の行き先が決まるまで居宅介護支援事業所の担当ケアマネージャーと連絡を取りながら経過フォローを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
[redacted]					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	6か月毎にケアプランの見直しを行い、定期的に想いや意向の把握に努めている。コミュニケーションを大切にし、日常生活の中から想いや希望を感じとるようにしている。困難な場合は、ご家族様から情報を頂いたり、今までの生活の様子から検討させて頂いている。	日常の話に耳を傾け、利用者の思いや、希望、悩みなど把握に努めている。骨折して歩く事が困難になった際、「利用者が車イスではなくもう一度歩きたい」との想いがあった利用者に対して、毎日の歩行練習を支援した結果歩くことができたり、元気で居たいとの想いの強い利用者には毎日少しでも運動できるよう支援することで笑顔を引き出せたり、その時々の状況に合わせた対応をしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様より基本調査として生活歴をお伺いし、面会の際も過去の生活の様子やご家族様の中でのエピソード等を聞かせて頂いている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の活動やご利用者様の状態が分かる記録を心掛け、一人ひとりの生活リズムやパターンの把握に努めている。現状に合わせた支援が行えるよう、ケースカンファレンスを都度行っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の現状を把握し、ご利用者様、ご家族様、職員でご本人らしく生活を送ることを話し合い、実現可能な介護計画書を作成している。	本人・ご家族の思いを一番に考え意向に沿ったサービス提供ができるよう,職員全体でカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録のパートナーの気付きや対応とケアプランの実践状況を記入やチェックする欄を設け、過去1か月分の記録を事務所の手の届きやすい場所に置くことで情報を共有している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	住み慣れた地域の中で、地域の方々と馴染みの関係を保ちながら生活して頂けるよう努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力病院をかかりつけ医としているが、ご希望のある方は他市町の病院への受診対応を行っており、必要時症状に合わせて相談し助言を頂いている。かかりつけ薬局との連携もとれており、いつでも相談できアドバイス等も頂けている。	利用者・ご家族の要望により、五城目町と北秋田市への通院支援を行っている。歯科については必要に応じて協力医療機関を利用している。かかりつけ薬局は近隣にあり、薬の相談等いつでもできる関係にある。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が中心となりご利用者様の心身状態の変化に気付いた支援を行わせて頂き、変化等が見られた場合は早急に受診したり、協力病院の看護師に相談することで適切な健康管理に努めている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際はご家族様や担当看護師と連絡を取り、都度状況把握に努めている。情報交換やケースカンファレンスにて医療機関とホームが同じ方向性を持って支援出来るように努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始の際、重度化及び急変時の対応をどうされるかをご家族間で話し合って頂けるよう説明させて頂いてる。また、協力病院や主治医とも連携を取りながら支援させて頂いている。看取りに関しては行わない方針である事をご家族様に説明し理解を頂いている。	重度化や看取りについては、本人及びご家族の意見をくみ取りながら話し合っていた。訪問診療が可能な医師の確保などの課題を整理しながら、可能な限り意向に沿った支援を提供すべく努めている事が確認できた。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習受講者1名おり、随時職員へ講習の参加を促している。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日勤帯・夜間帯想定の避難訓練を実施し、地域住民の方も参加して頂きながら避難時の対応を全職員が身に付けている。災害避難場所において、障害者施設から指定協力も頂き、また、避難の際自治防災会の避難移送協力も頂くこととなっており、地域との協力体制を築いている。	年2回昼夜想定にて地域住民の方も参加にて実施している。緊急避難場所の障がい者支援施設の見学も行い、また水害時の避難を想定し、自治防災会と移送訓練を行うなど、災害時の協力体制を築いている。	
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮した声がけを行っている。また、個別の話は居室で行うなどプライバシーに配慮しながら支援を行っている。	利用者の一日の過ごし方について、居室にいることや、リビングにいることを職員から促すことなく個々の行動を尊重している。排泄時の声掛けを工夫したり、個別の話は居室で行ったり、プライバシーに配慮しながら、さりげないサポートを心掛けている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声がけや対応が誘導的にならないよう配慮し、ゆっくりとご利用者様のお話しに耳を傾けて想いを引き出している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の生活リズムの中で食事や入浴、レクリエーション等の時間は概ね決めさせて頂いているが、ご利用者様の体調や気分、希望に応じて臨機応変に対応させて頂いている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの選択をご利用者様に選んで頂くことで、個性を引き出し自分らしく過ごして頂いている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の仕方をご利用者様に聞いたり、下準備を手伝って頂いたりしている。畑から収穫した旬の野菜を使用し楽しみながら食事して頂けるよう工夫している。苦手な食材には他の物を代用し対応させて頂いている。誕生会は手作りケーキ、行事食もご利用者様の希望を聞きながら提供させて頂いている。	近隣やご家族から差し入れられた山菜の下ごしらえを利用者たちで行っている。事業所の側にある畑で育った作物が食卓に並び、旬を感じさせてくれている。 誕生会には手作りケーキを作ったり、敬老会などイベント毎の食卓も好みを聞き提供したりと喜ばれている。職員、利用者が会話をしながら楽しく食事を摂る様子が見られた。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した献立を使用している。1日の食事・水分の摂取量を記録に記載し、状況を把握している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に合わせて毎食後口腔ケアを促し、口腔衛生を保っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に時系列で排泄状況を記入し、排泄パターンの把握に努めながら支援を行っている。 排泄介助に抵抗感がある方には、様子を見ながらさりげなく声がけし介助行わせて頂いている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その人に合わせたさりげないトイレ誘導を心掛けている。利用者の自尊心に配慮し、様子を見ながら、身体機能に応じて手を差し伸べたり歩行介助を行ったりしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れ、毎朝乳製品の提供を行っている。また、歩行練習や体操など体を動かす機会を作り便秘対策のアプローチを行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2回以上その方の心身の状態に合わせた方法（声がけ・時間・福祉用具の活用）で入浴して頂いている。時間帯は午後と決めさせて頂いているが、入浴の順番はご利用者様の希望に添いながら行わせて頂いている。	利用者の身体状況により手摺りやバスボードなどを使用し安心して入浴できる。あまり入浴したがらない利用者には、いろいろな誘い方、声がけをし、無理をしないよう一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて就寝前のお手伝いやゆっくりと関わりを持たせて頂いている。湿布や塗布薬の介助を行うことで疼痛緩和し安眠して頂けるような配慮を行っている。日中の休息もご本人の状態に合わせながらとって頂いている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を各薬ケースに入れ、職員が常に服薬内容の確認が出来るようにし、個々の内服薬の目的・副作用・用法を理解している。主治医や薬剤師よりその都度詳しく説明を頂いている。服薬変更時の場合、状態に変化が見られないか観察を行い、必要に応じて主治医に相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農園活動では野菜の育て方等をご利用者の方々に教わり、採れたての野菜を献立に取り入れ楽しんで頂いている。山菜や野菜の下準備など行えることは手伝って頂き、昔を思い出し楽しみながら作業できるよう支援を行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、感染予防対策のため外出を控えさせて頂いているが、暖かく天気の良い日はホーム玄関外に椅子を置き、日向ぼっこしながらお茶を楽しんだり、ゆったりと話をしたりして気分転換を図って頂いている。	本人の希望及び心身の状態、天候など考慮し出来る限りホーム周辺の散歩等戸外に出て外気や様々な刺激にふれる事のできる機会を設けている。 天気の良い日はホーム玄関外のイスにすわり日向ぼっこや、散歩している写真が確認できた。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や能力に合わせて、ご家族様の理解を得ながら金銭の所持、使用の支援を行っている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様からの要望があればいつでも対応させて頂き、ご家族様との繋がりを大切にして頂けるよう配慮させて頂いている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは清潔で温かみのある空間を心掛けている。各居室、リビングにはエアコンを設置し細やかな室温調整を行っている。季節を感じて頂けるよう折り紙作品などを飾ったり、心地よい空間で過ごして頂けるよう努めている。	トイレや浴室は清潔でシンプルな配置となっており、気になる匂い等不快な刺激は感じられない。時間になると、職員が掃除機がけ等をし清潔さを維持するよう努めている。村の産業祭に出品した品や手作りしたおひな様等、利用者の作品がリビングの壁に飾られ彩りを添えている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3人掛けのソファーを3シート設置しており、気の合うご利用者様同士、また一人でゆっくりと過ごして頂けるよう環境を整えている。玄関の風除室には長椅子を置き、暖かい日に外の景色をゆっくり見て過ごす気分転換の場所となている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用開始の際は、今までの生活空間に近い状態で安心して過ごして頂けるようお話し、使い慣れた物品をお持ち頂いている。遺影を持ってこられている方には、毎朝のお供えの準備をお手伝いさせて頂いている。	これまでの生活の延長である事を念頭に、過ごしやすい居室作りを心掛けており、写真や使い慣れた家具、遺影、自身で作成された作品を飾るなど、一人ひとりの個性が活かされた空間となっている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ危険の無い範囲で備品配慮を行ったり、職員がご利用者様の状態に合わせて環境を整え、ご自身で動作できるよう配慮に努めている。		